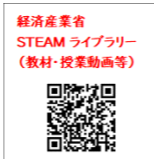




経済産業省「STEAM ライブラリー」の動画教材を使用した授業の紹介②

責任のある発信ってどういうこと？  
 吹田市立豊津第一小学校 6年 山埜善昭先生

—動画教材と指導案に加えた授業者のしかけ—  
 実際に学級ブログを作成する  
 ～一人ひとりが「自分事」として考えるために～



① **授業者のしかけ** 「情報を発信した経験がない子供たちにどうやって考えさせるのか」  
 授業前、クラスの子供たちは情報を発信した経験が無く、子供の実態と教材の内容には乖離がありました。山埜先生は、「この状態では動画の登場人物の気持ちに共感させることはできない」と考え、本時に入る前に、授業支援ソフトを活用して子供たちが今日の出来事を伝え合う「学級ブログ」に取り組みました。すると、休み時間等に端末を持って気になることを写真に撮る子供の姿が多く見られました。子供たちからは、「今日は何を書こうかな。」「みんなに自分の気持ちを知ってもらえるのが楽しい！」等の声が聞こえ、「見る楽しさ」から「見てもらう(発信する)」楽しさやよきに変容していることがわかります。このように、子供たちに登場人物と同じ経験をさせることで、一人ひとりが「自分事」として考えることができるような工夫を行いました。

② **授業の流れ**  
**Point 1** 校長ブログへの掲載～立ち止まる必然が生まれる～

本時で「学級ブログを、本当に校長ブログに載せます!」と子供たちに伝えると、「ええ～?!」というどよめきとともに、「ダメダメ」とか「いいよ」とか、さまざまな感情が溢れ出ました。その気持ちを担任の先生と「対話」を通して整理していく中で、子供たちは、「今のままではダメだ!」と立ち止まり、本時のテーマ「責任のある発信」について「自分事」として考え始めました。これが、動画教材の問いにつながっています。

**Point 2** 「STEAM ライブラリー」の動画教材の活用～責任のある発信ってどういうこと?～  
 登場人物のアキが「(ブログを書くとき)何に気をつけ、どう行動したらいいか」を考える場面では、子供たちから様々な意見があがりました。山埜学級の子供たちは、「対話」を通して出される意見の一つひとつが、すべて「自分事」として返ってきます。なぜならば、この後自分たちのブログを校長ブログに掲載するからです。アキの問いが子供たちにとっても切実な問いとなっています。

**Point 3** 自分たちのブログを問い直す～主語を置き換えながら考える～  
 発信する立場で授業が進んできたところで、先生は主語を変えて子供たちに問いました。「そもそも、校長ブログは誰が見るの?」「その人たちは、どうして校長ブログを見るの?」この問いで子供たちは、校長ブログは様々な人が見ることができる公共の場であることに加えて、みんな何かの目的があって見ることに気がつきました。そこで、自分たちのブログも「誰を対象に」「何の目的で」を考えようとして、責任のある発信を行うことが大切であることを学ぶことができました。

**STEP UP!**  
 必然的にシティズンシップや既習事項である「責任のリング」を意識する

本時の後、子供たちは「保護者を対象にして、「自分たちの行事やできごとを伝える」という目的を共有し、ブログを完成させました。実際に校長ブログに掲載されることを、待ち遠しくて仕方のない様子だったようです。右のQRコードから、子供たちのブログを見ることができます(令和4年12月1日分)。子供たちの営みを思い浮かべながら、ぜひご覧ください。

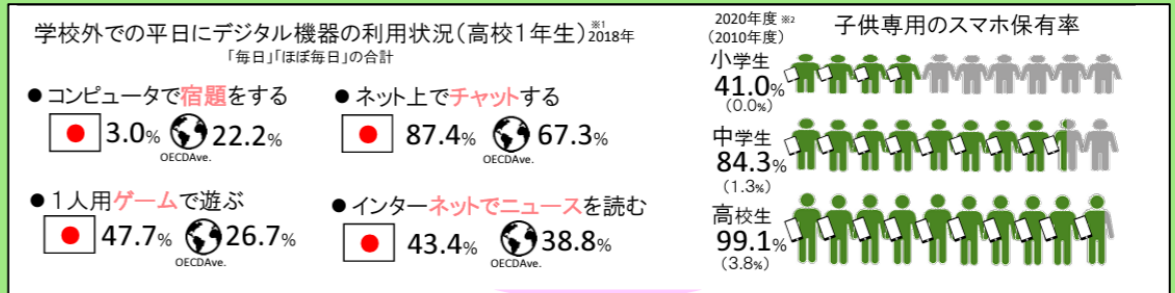


吹田市立豊津第一小学校 校長ブログ



**Topic** 国の動向  
 生まれた時からインターネット社会に接している「デジタル・ネイティブ世代」である現代の子供たちは、ICTをどのように使用しているのか  
 ～デジタル機器の利用方法や情報との向き合い方を考える必要性について～

OECD 生徒の学習到達度調査(PISA)2018によると、日本の子供のICT活用状況は、OECD加盟国間の比較において、学校の授業での利用時間が短く、学校外では多様な用途で利用しているものの、チャット、ゲームの利用に偏る傾向があります。また、スマートフォンは、10年前にはほとんど子供たちは持っていませんでしたが、現在のスマホ保有率は、高校生が99.1%、中学生が84.3%と非常に高く、「フィルターバブル現象」の中で日常的に情報に触れていることに気づかない状況や、大人が想像する以上に子供にかかる「同調圧力」の影響は非常に大きくなっています。このようななか、学校教育において、メディアリテラシーを育むなかで論理や事実を吟味しながら理解し、子供たちの「デジタル・シティズンシップ」を育成することは喫緊の課題となっています。



**フィルターバブル現象**

アルゴリズムにより、自分の考えや嗜好に合う情報がフィルターを通り抜けて提示されるようになり、多様性を欠いた自分の好む情報「だけ」に囲まれ、その他の情報から隔離されやすくなる状況。

**学校外でも同調圧力**

日本の子供のチャット利用率は非常に高く、昼夜問わず、グループでのやりとりやメッセージの既読確認ができる環境は、学校外にいても、同調圧力・ヒエラルキーが生じやすい状況。

「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」  
 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議(2022年6月2日)より抜粋

【編集後記】  
 山埜学級では、様々に形を変えながら学級ブログの取組を続けました。ただ「実際にブログ活動をさせれば、それでいいんじゃないか」という話ではないような気がします。デジタルであるかどうか、ブログであるかどうかは別の問題で、子供たちは日々の生活の中で、考えたり、判断したり、表現したりを繰り返しています。今回の授業では、「保護者に自分たちの気持ちやできごとを伝えたい」といった思いが背景にあります。その思いがあるからこそ「責任のある発信」について、「自分事」として考え続けることができたのではないのでしょうか。  
 (文責:小林)

